

保険者を訪ねて

石段と石橋の郷

美里町



《美里町の概要》（令和2年10月末現在）

人 口	9,721 人	
国保被保険者数	2,487 人	
後期高齢者医療被保険者数	2,524 人	
世 帯 数	4,291 世帯	
	国保世帯数	1,578 世帯
医療機関等数	医科	5 機関
	歯科	5 機関
	調剤薬局	4 薬局

＜担当＞

健康保険課	職 員	(うち専門職)
保険年金係	4 人	
健康支援係	8 人	6 人

美里町は熊本県のほぼ中央に位置しており、熊本市から南東へ約30 km、車で約40分程度の距離にある自然豊かな地域です。

地勢は山地丘陵部が多く、総面積(144.03 km²)の約4分の3(107.59 km²)を森林が占める典型的な中山間地域です。

また、一級河川緑川とその支流を多く抱え、緑川ダムや船津ダムを有した地域でもあります。

名所には、霊台橋、二俣橋をはじめとするたくさんの石橋や、日本一の石段やフォレストアドベンチャーなどのアクティビティがあります。



美里町役場（中央庁舎）



健康保険課の職員の皆様

美里町の令和2年10月末現在の国保被保険者数は2,487人で、国保加入率は25.6%となっています。

また、高齢化率は県内3位の44.2%と高く、国保被保険者の約50%が65歳以上という状況です。

医療費については、一人当たり医療費と一件当たり100万円以上の高額医療費が増加していたことから、予防可能な疾患である脳血管疾患や心疾患、生活習慣病の重症化予防に重点をおき、町の地区担当保健師・管理栄養士の家庭訪問に力を入れられています。

その結果、町の総医療費に占める生活習慣病の医療費の割合は年々低下し、令和元年度は20.6%とデータヘルス計画で掲げた目標の20%に近づくとともに、高額医療費に占める脳血管疾患や心疾患の発症数も減少しています。

今回は、こうした成果に繋げる保健事業の取り組みを中心にお話を伺いました。

保健事業の取り組み

～リピーターを増やす健診を目指して～

本町では、平成26年度のデータヘルス計画策定時から、虚血性心疾患や脳血管疾患と、それらのリスクとなる高血圧や糖尿病などの生活習慣病、メタボリックシンドロームが課題であると考え、その中でも、特に高血圧対策を中心に保健事業の取り組みを進めてきました。

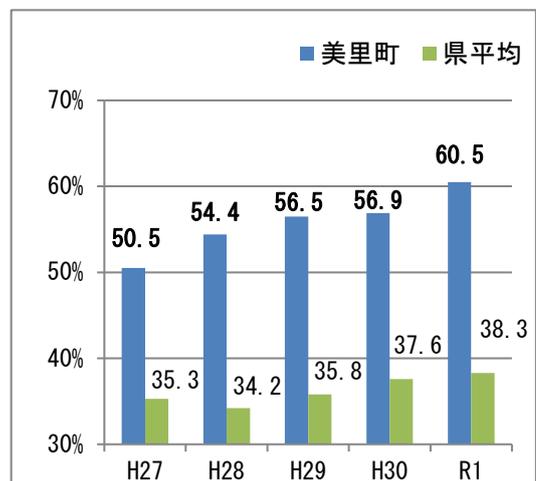
また、平成29年度からの第2期計画でも、引き続き生活習慣病に着目した保健事業を展開していくために、住民に広く健診の機会を提供するよう努めています。

より多くの住民に健診を受診してもらうために、住民同士の繋がりを活用し、町の健康づくり推進員（各地区1～3人）の訪問による受診勧奨を行っています。健康づくり推進員には、年に6回開催する学習会の中で、各地区の健康課題を共有し、健診の効果やねらいについて学習し、地区の方々に丁寧にお伝えしていただいております。その他にも、医療機関や事業主から診療情報や職場健診の結果を提供してもらい、一人でも多くの住民の健康状態を把握できるよう取り組んでいます。

また、健診後は、結果説明会や個別訪問を通じて受診者に自分の身体の状態を理解してもらっています。令和2年度は、コロナ禍の状況を考慮して、結果説明会は中止しましたが、受診者全員を短期間に個別訪問した上で、詳細な結果説明を行いました。

こうした取り組みを継続することで、住民の健康意識も高まり、令和元年度の特定健診受診率（図1）は目標の60%を超え、継続受診率も80%に上っています。

（図1）特定健診受診率



一方で、40～64歳に限定すると特定健診の受診率は39.4%と低いことから、今後は若い世代への取り組みを強化する必要があります。「毎年健診を受けるのが楽しみ」と思ってもらえるよう、スタッフも保健指導技術の向上に取り組んでいきます。

～成果に繋げる特定保健指導と重症化予防～

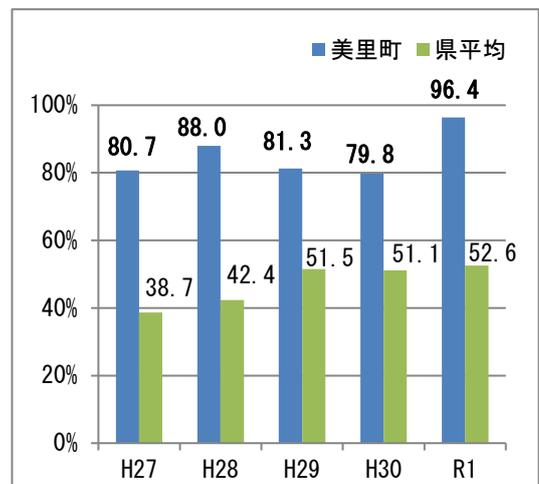
特定保健指導

本町では、特定保健指導対象者にとって利便性が高く、継続しやすい保健指導に取り組んでいます。

具体的には、対象者の都合に合わせて休日や夜間に面接できる体制を整えるとともに、令和2年度からは外部委託を全て直営での実施に切り換え、健診当日に保健指導対象者への面接を実施するなど、少しでも対象者の行動変容に繋がるよう取り組んでいます。

利用しやすい特定保健指導の実施を心掛けたことが、特定保健指導の実施率（図2）にも繋がっています。今後も単に実施率を追求するのではなく、成果の出る保健指導・栄養指導を目指して事務職と専門職が一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

（図2）特定保健指導実施率



重症化予防

生活習慣病の重症化予防では、血压手帳や糖尿病連携手帳を活用した医療機関との情報共有や協働支援を行っています。血压手帳は、血压の変化をグラフ化することで、対象者が自身の健康状態を把握しやすく、医師が細かな変化を確認する上でも有効であることから、積極的に活用しています。また、事例検討を通じて専門医や薬剤師から得た助言内容を踏まえた地区担当の保健師や管理栄養士による継続した支援などで、Ⅱ度高血压以上の人の割合が、平成28年度の9.7%から令和元年度には5.6%にまで減少しました。

しかし、高血压の対策は成果が出てきている反面、糖尿病やメタボリックシンドローム対象者については、なかなか効果が出ず、結果に結び付ける難しさを痛感しています。糖尿病については、令和元年度の新規透析導入者はいませんでした。糖尿病治療中の腎機能低下者が増えてきています。糖尿病連携手帳を発行して医療機関との連携に活用し、事例検討会で腎専門医などの助言指導をいただき、まずは、合併症の危険がさらに大きくなるHbA1c8.0%以上の方の減少を目指しています。

今後も対象者への支援を継続しながら、39歳以下の若年層への生活習慣病の早期介入保健指導にも力を入れ、町民全体への生活習慣病重症化予防に繋げていきたいと思ひます。

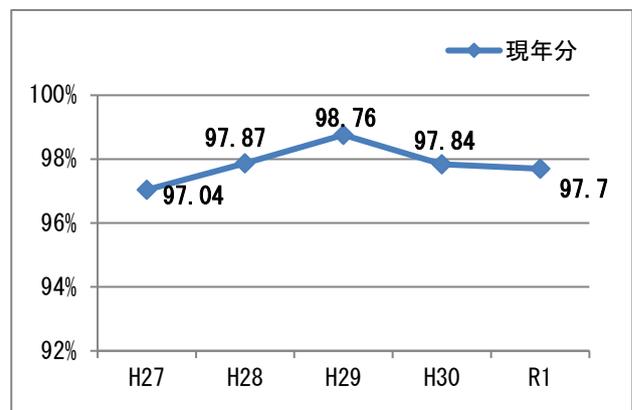
保険税収納率向上のための取り組み

本町の現年分の国保税収納率(図3)は、平成29年度98.76%、平成30年度97.84%、令和元年度97.70%と、毎年98%前後で推移しており、県内でも上位10市町村に含まれています。

町の国民健康保険税条例で、原則として口座振替による納付を規定していることから、窓口での手続きに際しては、振替用口座の登録がない被保険者に、必ず口座振替の案内を行うとともに、納付書を送付する際には、口座振替勧奨チラシを同封するなど、口座振替による納付を推進しています。

また、国保税滞納対策事業実施要綱を定め、支払能力があると見込まれる国保税滞納世帯への短期被保険者証、資格証明書の交付を徹底し、滞納者との面会の機会を確保しています。その他にも、税務課収納担当係との情報共有による高額滞納者、長期滞納者などへの確実な滞納処分の実施や、御船町・嘉島町・甲佐町・山都町の上益城4町と協力して、差し押さえや転出先での情報共有など町の枠を超えた広域での併任徴収を活用しながら、収納率の向上に取り組んでいます。

(図3) 国保税収納率



健康づくりに関するインセンティブ

健康ポイント事業の共同展開

本町では、熊本連携中枢都市圏事業の取り組みの一つとして、熊本市の健康ポイント事業に令和3年度から参加する予定です。熊本市が開発したスマートフォン専用アプリを活用し、日々の健康活動を「健康ポイント」として「見える化」することで、達成感を得ながら、健康活動の習慣化に取り組んでいただければと思います。

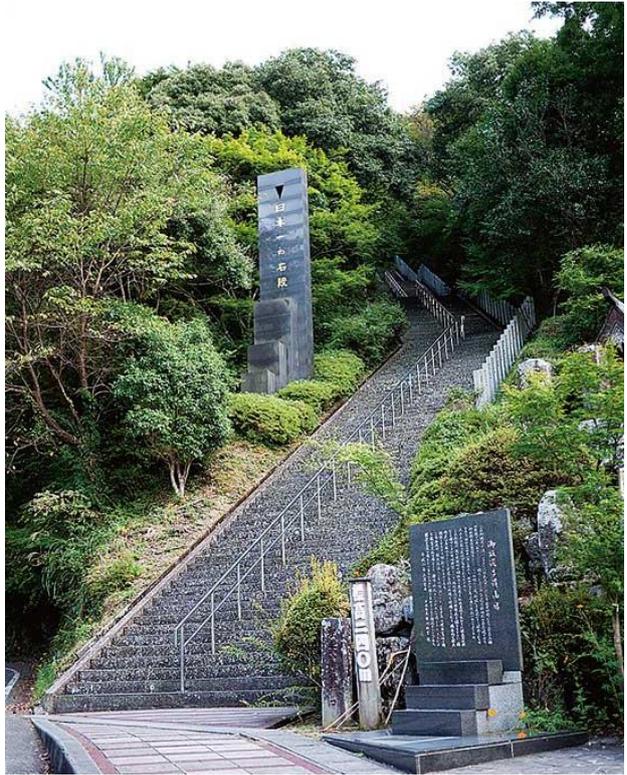
熊本連携中枢都市圏では、人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、住民が安心して暮らしていけるよう、圏域の中心的役割を担う中枢都市（熊本市）が近隣の市町村と連携し、事業を行っています。「圏域全体の経済成長のけん引」「高次の都市機能の集積・強化」「圏域全体の生活関連機能の向上」の3つの取り組みを実施し、人々が集まる魅力的な圏域の形成を目指しています。平成28年3月に結成され、現在は18市町村が参加しています。

まちの見どころ

日本一！

釈迦院御坂遊歩道 3333 段石段

世紀の文化遺産として後世に残すとともに町の活性化を図るための観光の目玉づくり、町おこしのシンボルづくりを狙って、昭和 63 年 3 月末に 1200 年の歴史を秘めた由緒ある釈迦院（八代市泉町）の表参道である御坂に建設された石段です。毎年 11 月には、石段を利用して、アタック・ザ・日本一というイベントを開催しています。



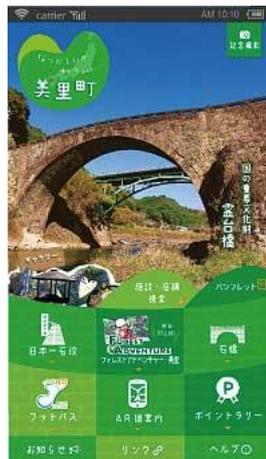
フォレストアドベンチャー



緑川ダム湖畔に位置し、森や地形をそのまま使った熊本県では初となる本格アウトドアパークです。木の高低差と特徴を生かしたダイナミックでスリリングな体験ができる「アドベンチャーコース」と日本初となるダム湖横断が体験できる「ジップトリップコース」を設置しています。

スマートフォンの 公式アプリ 「みさといっぴ」

観光やイベントなどのたくさんの情報や、VR などのさまざまな機能がありますので、ぜひダウンロードしてみてください！



二俣橋

江戸時代後期に架けられた 2 つの石橋の総称で、ハートができる石橋として「恋人の聖地」に認定されています。

